

平成25年度

学校評価

総括評価表

徳島県立富岡西高等学校

◎ 1 確かな学力を身につけさせる (教務課・進路指導課)

自己評価				学校関係者 評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		
確かな学力を 身につけさせる	(全校レベル) I) 学習指導の充実 II) 課外学習の充実 (下位組織レベル) 1) 指導方法を工夫・改善し、わかる 授業、力をつける授業を実践する。 2) 理数科教育を充実させ、応用力や 発展的な学力を身につけさせる。 3) 「朝学」を計画的に実施し、有効 活用を図る。 4) 補習授業を充実させる。	評価指標 1) ①1・2学期に相互授業参観を実施し、それ ぞれの期間で一人5回以上他の教員の授業 を参観する。 ②授業評価を10月に実施し、肯定的な評価8 割以上を目指す。その結果を10月以降の授 業改善につなげる。	評価指標の達成度 1) ①1学期は全ての教員が5回以上参観 できていたが、2学期についてはで きていない者もいた。 ②10月に全ての教科で授業評価を実施 した。肯定的な評価は88.2%であっ た。	評価 B	総合評価 (評定) B (所見) 評価指標関連につい ては概ね達成できた。 確かな学力を身につ けさせる取り組みにつ いては、予定通り実施 できた。定期考査の欠 点者数・欠点科目総数 共に昨年より約2割減 少しており、基礎力に ついてはある程度定着 しているものの、まだ まだ物足りない。 相互授業参観につい ては、授業参観後の助 言方法など改善を図る 必要がある。高い授業 力を持った全国的に有 名な先生の授業を参観 することは好評であっ た。 3年次の早朝補習は2 年目の取り組みとなる。 得意教科の継続的強化 指導の成果は模試成績 がセンター試験まで安 定したことに表れてい る。 compass・土曜補習・ 早朝マークトレーニング は予定通り実施できた。 compassの合格率は昨年 より低いが不合格者に 対する再テスト指導は 学力向上の意識を高め ることに役だった。
		活動計画 1) ①相互授業参観週間で他の教員の授業参観や 他の教員からの助言等を通して、授業改善 を図る。	活動計画の実施状況 1) ①相互授業参観については、概ね目標は達成 できたが、授業者に対する助言等は十分行 われていなかった。10月に灘高校の木村達		

		<p>②10月に授業評価を実施する。授業評価の結果を教科会でも分析し、各自が授業改善に努めると同時に、教科全体でも改善を図る。</p>	<p>哉氏に模範授業を実施してもらい、指導方法等について共有できたことは大きな成果であった。</p> <p>②肯定的な意見はほぼ昨年並みであった。今年度はほぼ全ての教科で授業評価の分析を行い、以後の指導改善につなげた。</p>			
	<p>2) ①英語・数学・国語の授業を習熟度別に実施する。 ②各教科の難関大担当者が入試問題を分析し、そのレベルに対応できる力を身につけさせる授業・課題を実施する。</p>	<p>2) ①理数科については2年次から英語・数学・国語において、普通科については英語・国語を2年次から、数学を3年次から習熟度別に授業を実施した。 ②習熟度別になっている教科ではハイレベルな問題に対応できる授業を行い、特に難関大学や難関学部志望者については、個別に対応していた。模擬試験やセンター試験で上位層には確実な伸びが見られた。</p>	<p>2) ①理数科については2年次から英語・数学・国語において、普通科については英語・国語を2年次から、数学を3年次から習熟度別に授業を実施した。 ②習熟度別になっている教科ではハイレベルな問題に対応できる授業を行い、特に難関大学や難関学部志望者については、個別に対応していた。模擬試験やセンター試験で上位層には確実な伸びが見られた。</p>			
	<p>3) ①compassの出題範囲・内容を精選し、合格率を80%以上を目指す。 ②自習プリントや小テストおよびスケジュール帳の記入など『朝学』の内容を設定する。</p>	<p>3) ①Compass合格率（50点満点中30以上が合格） 1年次全体 81.6%(昨年度86.2%) (国語81.5%, 数学76.3%, 英語87%) 2年次全体 70%(昨年度77.5%) (国語69.7%, 数学56.0%, 英語84.0%) ②『朝学』の内容設定はしていないが自学自習の落ち着いた時間を過ごしている。</p>	<p>3) ①Compass合格率（50点満点中30以上が合格） 1年次全体 81.6%(昨年度86.2%) (国語81.5%, 数学76.3%, 英語87%) 2年次全体 70%(昨年度77.5%) (国語69.7%, 数学56.0%, 英語84.0%) ②『朝学』の内容設定はしていないが自学自習の落ち着いた時間を過ごしている。</p>			
	<p>4) ①文系は英国・理系は数理の早朝補習を44回実施し、早期に得意教科の足固めを図る。 ②土曜日において、英数国から2教科選択して理解しにくい分野の補強・校外模試対策などテーマを絞った効果的な補習を実施する。 ③実践マーク問題の演習及び解説を通して理解不十分の事項の解消を図る。</p>	<p>4) ①第1クールでは54名参加し、第2クールでは77名、第3クールでは87名が参加した。 4月17日から10月4日まで、クール毎に一科目の補習を受けることで、得意教科の成績向上の足がかりとなった。 ②9月14日より1・2年次生の希望者210人（昨年度215人）に対し、英数国から2教科を選択させ11回の補習を実施した。（昨年度は11回）補習内容は、英数国各教科内で検討し、学習進度や実施時期に合わせた内容とした。 土曜補習を活用している 生徒の満足度は76.7%(昨年度は81.8%) 保護者の満足度は88.3%(昨年度は91.2%) ③期間:10月7日～11月8日 (1日につき1科目) 各科目2回（早朝マークトレーニングⅠ・Ⅱ）実施。</p>	<p>4) ①第1クールでは54名参加し、第2クールでは77名、第3クールでは87名が参加した。 4月17日から10月4日まで、クール毎に一科目の補習を受けることで、得意教科の成績向上の足がかりとなった。 ②9月14日より1・2年次生の希望者210人（昨年度215人）に対し、英数国から2教科を選択させ11回の補習を実施した。（昨年度は11回）補習内容は、英数国各教科内で検討し、学習進度や実施時期に合わせた内容とした。 土曜補習を活用している 生徒の満足度は76.7%(昨年度は81.8%) 保護者の満足度は88.3%(昨年度は91.2%) ③期間:10月7日～11月8日 (1日につき1科目) 各科目2回（早朝マークトレーニングⅠ・Ⅱ）実施。</p>			

◎ 2. 生活指導の充実を図る (生徒指導課・環境情報課・教育相談課)

自己評価				学校関係者 評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		
生活指導の充実を図る。	(全校レベル)	評価指標	評価指標の達成度	評価	総合評価 (評定)
	I) 生徒指導の充実 II) 健康教育の充実 III) 教育相談の充実				総合評価Bは妥当である。
	(下位組織レベル)				
	1) 基本的な生活習慣の育成に努める。	1) ①常時指導を重視し全校集会や年次集会時に、頭髪・服装検査を実施するとともに、基本的な生活習慣の確立を図る。 ②遅刻者を前年度より30%以上減少させる。 ③朝学習遅刻指導を強化する。	1) ①常時指導や頭髪・服装検査を実施することにより違反者が減少した。駐輪時の施錠は95%以上ができるようになった。 ②遅刻者は前年比31.7%減 ③毎日、朝学習遅刻指導を実施した。	A	<p>(所見)</p> 評価指標関連については概ね達成できた。教職員の協力体制により、積極的な生徒指導が展開できた。
	2) 規範意識を高め、社会人として通用するモラル・マナーを身につけさせる。	2) ①携帯電話安全教室・薬物乱用防止教室を開催する。 ②交通事故防止に努め重大交通事故ゼロを目指す。	2) ①1年次生を対象に実施し、啓発に努めた。 ②重大交通事故は発生しなかったが交通事故は20件(前年19件)発生した。	B	
	3) 生徒一人ひとりを大切にしたい指導を通して、他者を思いやる心を育み、自尊感情を育てる。	3) ①面接週間を年間4回、特別面接週間を年間2回(6月・10月)実施する。三者面談を年間1回実施する。 ②道徳教育用教材の活用を推進する。	3) ①予定通り個人面接を実施した。生徒理解や積極的な生徒指導に繋がった。 ②道徳教材の活用は不十分であった。	B	評価指標は概ね達成できているが、生徒の登下校中の交通安全指導については、課題も残っているので引き続き積極的に取り組んでほしい。
	4) 「早寝、早起き、朝ご飯」を推奨し、生活習慣の改善を図る。	4) ①保健だよりは年間5回以上発行し、生活習慣の改善について啓発を図る。 ②生活習慣についての実態調査を行う。	4) ①保健だよりは年間3回の発行であった。 ②本年度、明らかな不摂生による保健室利用者は少なかったことから、進路課が実施している睡眠・学習時間をもとに検討を行った。	B	
	5) 生徒の悩みや相談に対応できるよう教育相談室を有効活用する。	5) ①相談室からの広報誌を通じて、昼休みの開放の案内を学期に1回行う。	5) ①学期に1回、相談室の広報を行うとともに、定期的に相談室を開放することにより相談体制が整った。	B	社会では互いのコミュニケーションがうまくとれない人間が増えている。相手の気持ちを酌みとり、自分の発言に責任を持てる生徒の育成が望まれる。
		活動計画	活動計画の実施状況		保健室に来る生徒の数が減少しており、基本的な生活習慣が身につけてきていると思われる。 教育相談課としての機能が確立してきた。
		1) ①頭髪・服装違反検査(毎月)を実施する。 ②毎週末、遅刻指導を実施する。 ③朝学習遅刻指導を毎日実施する。	1) ①全校集会・年次集会時に頭髪・服装検査を実施した。 ②毎週末、遅刻指導を個別に実施した。 ③毎日、朝学習指導を実施した。		
		2) ①携帯電話安全教室・薬物乱用防止教室を開催する。 ②全校生徒を対象に交通マナーアップ講話を実施する。 ③交通マナーアップ活動(生徒会・部活動で校門前のあいさつ運動・駐輪場での整頓・	2) ①4月に携帯電話安全教室・10月に薬物乱用防止教室を実施した。 ②4月に交通マナーアップ講話を実施した。 ③生徒会・全部活動が輪番で交通マナーアップ活動(あいさつ運動・駐輪場での整頓・		○正しく着こなすという意識は高まってきている。スカートの着用指導を徹底していく。 ○特定の生徒が朝学習、本遅刻を繰り返した。遅刻者の個別指導を強化していく。 ○関係機関と連携し交通安全教育を推進する。通学指導、駐輪指導を継続する。 ○健康増進、体調の自己管理ができるよう、保健だよりをさらに充実させる。

		<p>施錠の呼びかけ)を実施する。</p> <p>④自転車・原付自転車の整備点検し整備不良車は再点検を実施する。(年2回)</p> <p>⑤毎月、学校安全の日に教職員による街頭通学指導を実施し、月～木に富西前交差点で通学指導を実施する。</p> <p>⑥原付免許証取得者を対象に阿南自動車学校で実技講習会を実施する。</p> <p>3) ①面接週間を4回、特別面接週間(6月・10月)、三者面談を実施する。</p> <p>②年次会情報交換を実施する。(随時)</p> <p>4) ①保健だより、生活習慣の改善に関する記事を組み、生徒の意識啓発を図る。</p> <p>②生徒全員を対象とした、生活習慣についての調査により、実態把握を行い意識啓発に生かす。</p> <p>5) ①原則として火、木、金曜日の昼休みに相談室で生徒の相談を受け付けていることを生徒に知らせ、その日は課員が在室して生徒の相談に対応できるようにする。</p>	<p>施錠の呼びかけ)を実施した。</p> <p>④4月・9月に点検週間を設け自転車・原付の整備点検を実施した。</p> <p>⑤毎月、学校安全の日に街頭通学指導を実施し、月～木曜日(8:10～8:20)に富西前交差点で通学指導を実施した。</p> <p>⑥7月に阿南自動車学校で原付免許証取得者実技講習会を実施した。</p> <p>3) ①4.6.9.1.月に面接週間、6.10月に特別面接週間を実施した。夏季休業中に三者面談を実施した。</p> <p>②年次会で情報交換を実施した。</p> <p>4) ①保健だよりでは生活習慣よりも季節による疾病や感染症についての意識啓発を行った。</p> <p>②明らかな生活習慣の乱れによる保健室への来室者は減少していることから、実態把握は進路課で実施している調査を使用し、学校保健委員会の議題に組み込んだ。</p> <p>5) ①特別な行事や時間割変更が無いときは火、木、金曜日に相談課員が相談室に待機し、相談に応じた。</p>			
--	--	--	---	--	--	--

◎ 3. 豊かな人間性と社会性を培う (特別活動課・人権教育・図書)

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価			
豊かな人間性と社会性を培い、「学び合い、高め合い。支え合う」集団をつくる。	(全校レベル)	評価指標	評価指標の達成度	評価	総合評価 (評定)	総合評価Aは妥当である。 部活動は高い入部率であり、また全国大会に出場する部の見られ活性化の兆しが見られる。 文化祭・体育祭の実施内容についてはクラスや生徒の実態に応じて引き継ぐべき所は残し、検討すべき所は検討するなど柔軟に行ってほしい。 体育祭の参観者がここ数年増加している。教職員に新たな負担を課さぬよう、保護者の応援の方法についてPTAが話し合い再考すべきこともあるのでは。生徒のがんばりを応援する保護者でありたい。 ○年間計画のなかで、それぞれ学校行事を日程的に無理のない次期に設定する必要がある。 ○文化祭の初日と2日目の内容の検討の必要性あり。特に、2日目の個人の紅白歌合戦に全員が出席しなければならないところに問題がある。各部の発表会や演奏会とかクラスでの出し物にするとか、検討の余地あり。 ○2月の調査でも90%を超える定着率で、部活動が生活の一部として根付いている。 ○来年は、一年次のみが季候の良い2学期に実施する予定。それに伴い、ロングホームルームの時間に年1回クラス単位で清掃ボランティア活動を入れる予定。 ○人権学習ホームルーム活動事前研修が前年度の踏襲に終わらず、授業内容をさらに深化・充実するための研修になるよう工夫する必要がある。 ○生徒の関心・理解・共感が得られるような「富西人権の日」の行事になるようさらに創意工夫する。
	I) 特別活動の充実				A	
	II) 人権教育の充実					
	III) 読書活動の推進					
	(下位組織レベル)				(所見)	
	1) 部活動、生徒会活動等を活性化し、連帯感を持たせ、協同の精神や愛校心を育てる。	1) ①部活動主将・部長会議を年間2回実施する。(必要に応じて適宜実施する) ②各種研修会を年間2回実施する。	1) ①予定通り主将会議、部長会議を4月と10月に実施できた。 ②各種専門委員会〔4月・10月〕とホームルームリーダー研修会〔5月・10月〕を必要に応じて2回ずつ開催し、責任感と意識の高揚に努めた。	A	予定通り実施し、責任感と意識の高揚に努めることができた。	
	2) 学校行事や部活動等をとおして、調和のとれた人間性を育成する。	2) ①学校祭へ来校する一般者数は600人以上。 ②学校祭をはじめとする学校行事の満足度80%以上。 ③部活動への入部率を80%以上。	2) ①3日間で865名で、予定を上回った。 ② 95%の満足度で、達成できた。 ③ 入部率89%で、達成できた。	A	全て基準を超えて、目標を達成できた。	
	3) ボランティア活動等をとおして、社会参加の意識を高め、奉仕の心を育む。	3) HR活動で、年次ごとに学校周辺と桑野川河川敷の清掃ボランティアを実施する。	3) 年次ごとに、年3回実施できた。来年は、1年次のみ実施の予定である。	A	予定通り実施できた。積極的に、そして意欲的に取り組んだ。	
	4) 自らを尊重すると同時に他者を尊重し、人権に対する鋭い感性を磨き、常に相手の立場に立って考え行動することのできる人づくりをめざす。	4) ①人権学習ホームルーム活動を年間6回実施する。 ②教職員の人権学習ホームルーム活動事前研修を年間4回実施する。(6テーマ) ③「富西人権の日」を月1回実施する。	4) ①人権学習ホームルーム活動を各年次、年間6回ずつ行うことにより、人権意識の高揚に努めた。 ②教職員の人権学習ホームルーム活動事前研修を年間4回実施することで授業内容の充実とホームルーム間の統一をはかることができた。 ③月1回の「富西人権の日」では様々な行事を企画・運営することができた。	B	人権学習ホームルーム活動についての評価が1年次は80%と高かったが、2年次、3年次は70%台にとどまった。また、富西人権の日の定着度も評価の結果、全年次において70%前後となり、さらなる努力が必要である。	
	5) 人権問題に積極的に取り組む実践的な態度の育成を図る。	5) 人権委員会や社会問題研究部による啓発活動を実施する。	5) 「じんけん富西」の発行や富西祭での展示、身元調査お断りワッペン啓発活動参加など、積極的に活動した。	A		
6) 読書活動の啓発を行い、読書の習慣化を図る。	6) ①「ライブラリーニュース」を定期的に年間8回以上発行する。 ②年2回読書会を開催する。	6) ①「ライブラリーニュース」を年間9回発行した。 ②年2回読書会を開催した。	A	活動は計画通り実行できたが、「ライブラリーニュース」の存在が十分生徒のなかで行き渡っていなかったようである。		
	活動計画	活動計画の実施状況				
	1) ①部活動部長会議を(4月・10月)に実施する。また、必要に応じて開催する。 ②各種専門委員会、ホームルームリーダー研修会を開催する。	1) 部活動のあり方の確認や、問題点を聞き、よりよく、しかも活発に展開できる方策を検討した。時間的な問題が困難である。 2) 各種委員としての責任の自覚を促し、リーダーとしての心構えを指導した。				
	2) ①学校祭を9月実施とし、一般公開する。 ②各行事終了後にアンケートを実施し検証する。	2) ①9月開催し、一般公開した。 ②それぞれの行事終了後にアンケートを実施し、その内容を検証し、次に生かせるよう				

		<p>③4月と2月で入部率を調査・把握する。</p> <p>3) 学期ごとに各年次1回ずつ清掃ボランティアを実施。ゴミの回収から分別まで正確におこなう。</p> <p>4) ①人権学習ホームルーム活動を年間6回実施する。 ②各年次で人権学習ホームルーム活動の事前研修会を行う。 ③「富西人権の日」の人権に関する行事を企画・運営する。</p> <p>5) ①人権委員会で「じんけん富西」を作成し発行する。 ②人権委員会の富西祭での展示，社会問題研究部の自主研修を支援する。</p> <p>6) ①図書委員会で「ライブラリーニュース」を作成し発行する。 ②図書委員を中心に読書会の企画・運営をする。</p>	<p>努めた。</p> <p>3) ゴミの回収から分別まで、正確に行った。学期ごとに、各年次とも実施できた。</p> <p>4) ①各年次，統一したテーマにより人権学習ホームルーム活動を年間6回実施できた。 ②各年次で年間4回（6テーマ）の事前研修を実施した。 ③担任・副担任のメッセージや講演会，「じんけん富西」の発行等，様々な企画を運営することができた。</p> <p>5) ①人権委員の意見や感想等をできるだけ取り入れた「じんけん富西」を作成・発行できた。 ②各年次，前期後期とも2回以上の人権委員会を実施し，富西祭の展示も主体的に行った。社会問題研究部も一年を通じた活動を行うことができた。</p> <p>6) ①図書委員会で新着図書や推薦図書を入れた「ライブラリーニュース」を作成・発行し，教室に掲示した。 ②図書委員で本を選定し，ポスターを掲示して参加を呼びかけた。委員長を中心に読書会を行った。</p>			<p>○社会問題研究部員を確保し，昨年度に継続した活動ができるようにする。</p> <p>○「ライブラリーニュース」の掲示方法を工夫するなど，広報活動に力をいれていきたい。</p>
--	--	---	--	--	--	--

◎ 4. 進路志望の実現を図る (進路指導課)

自己評価				学校関係者 評価	次年度への課題と 今後の改善方策		
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価				
生徒一人ひとりの個性・能力を伸ばし、進路志望の実現を図る。	(全校レベル) 1) 進路指導の充実	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) B ----- (所見) 評価指標については概ね達成できた。 生徒・保護者対象の進路講演会は有名講師を招聘するなど成果を上げた。 ----- 総合的な学習の時間では、担当教員の負担は大きいが生徒や保護者の満足度は約80%と高く、理解と協力に支えられて活動がなされている。	総合評価はAが適当である。 評価指標については概ね達成できており、また生徒・保護者対象の進路講演会も充実した内容であるなど成果を収めている。総合的な学習の時間に対する生徒・保護者の満足度も高い。	○年次部会で扱う進路説明を担当者を決めて行い自己研鑽を兼ねる。 ○進路問題についてのホームルーム活動を生徒にとって魅力的な内容にするため、創意工夫が必要である。 ○生徒の興味と実態に応じた講演会を実施する。 ○オープンキャンパスの参加率は全年次とも向上したが、1年次から積極的に参加する姿勢を持たせるため1学期の段階で進路意識を高める工夫をする。 ○総合的な学習の時間においては担当者間で指導内容の共有を十分に図り担当ごとで指導内容に差異が生じないようにする。	
	(下位組織レベル) 1) 生徒の能力、適性に合った進路を実現させるため、きめ細かい指導ができる進路指導体制を整備する。	1) ①進路設計についてのHR活動を各学期ごとに実施する。 各年次で進路講演会を年間2回実施する。(生徒対象1回, 保護者対象1回) ②生徒・保護者対象の進路講演会を実施し、最新の進路情報を提供する。 ③夏季休業中等を利用したオープンキャンパスへの参加率1年次30%, 2年次60%, 3年次80%以上を目指す。	1) ①『道』を使った進路に関わるHR活動を実施した。また各年次集会で進路に対する意識の高揚を図った。 ②5月全年次対象に灘高・中学校教諭木村達哉氏, 10月には2年次の生徒・保護者対象に近畿大学入学センター屋木清孝氏, 11月には1年次の保護者対象にベネッセコーポレーション水野琢朗氏, 12月には1・2年次の生徒対象に日亜化学工業の森義章氏を招いて進路講演会を実施した。 ③徳島大・鳴門教育大等の夏期休業中等のオープンキャンパスへの参加率 1年次 38.7%(昨年度25.4%) 2年次 80.0%(昨年度69.6%) 3年次 89.2%(昨年度79.9%)				A
	2) キャリア教育を推進し、組織的・計画的な進路指導を行うことにより、生徒が自らの在り方・生き方を考えられるよう支援する。	2) 総合的な学習の時間のテーマ「社会探究」において ①1年次では課題を発見し、各自の研究テーマを見つける。 ②2年次では研究テーマに沿って自主研究を実施し、年間1回発表会を実施する。 ③3年次では志望理由書と小論文を併せて年間6回実施し、表現力強化を目指す。	2) ①1年次では所属する講座を決めて、自主研修のテーマと修学旅行の研修先を決定した。 ②2年次では自主研修発表を10月に実施し、発表後は自己の進路決定に役立てるため進路ノートを活用した。 ③計画通り実施することができた。				B
		活動計画	活動計画の実施状況				
		1) ①年次毎にテーマを設定し、進路情報誌『道』を活用する。逆引き辞典・進学ガイドブックを使って大学等についての理解を深める。 ②学部系統別進路ガイダンス(1・2年次生) 大学短大等進学及び就職進路別集会(3年)の実施 ③オープンキャンパス・体験入学の案内(国公立・有名私立大を重点的に)大学等研究することで自分の進路や将来をしっかりと考えさせる。	1) ①『道』や逆引き辞典などを履修科目の選択決定や進路理解を深めるために活用した。その他にも進路情報誌を随時提供した。 ②徳島大学を主として県内外から外部講師を招き、志望系統別に進路ガイダンスを実施し望ましい職業観の確立や学部・学科の研究を行うことができた。 3年次は5月に大学・短大志望者に向けて灘高・中学校教諭の木村達哉氏の講演を実施するとともに就職専門学校等志望者には多数の専門学校講師を招き進路別の集会を持つことができた。 ③4月当初よりオープンキャンパス・看護体験等の情報を随時発信した。				
		2) 進路設計についてのテーマに沿った学習を実施する。各年次でテーマを決定し、進路ノート等を使って進路指導を実施する。 1年次：望ましい職業観 2年次：学部学科の研究	2) ①1年次前半は各教科から「高校の学びを知る」として、「学び」の内容と職業や学問など社会との関わりについて講義した。後半は進路ノートを活用して、社会・職業・学問・進路を知り興味関心を深め課題研究の				

3年次：受験までのスケジュール、
志望理由、面接、教科別受験対策など

- 準備をすることができた。
- ② 2年次前半は講座別の活動を通して、各自が個別にテーマを設定して、調査研究を行い、発表した。発表後は、社会・職業・学問・進路についての知識を深め、3年次の準備を進めた。
 - ③ 3年次では志望理由書を5回、小論文を5回実施した。

◎ 5. 環境教育・防災教育を推進する

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
環境教育・防災教育を推進する。	(全校レベル) I) 環境教育の充実 II) 防災教育の充実	評価指標	評価指標の達成度 1)	総合評価 (評定) B	総合評価はAが適当である。
	(下位組織レベル) 1) 校内外の環境美化活動を推進し、公共心や奉仕の精神の育成を図る。	1) ①清掃に真面目に取り組んでいると考える生徒が7割以上。 ②校外清掃ボランティアを年間15回以上実施する。(参加生徒延べ人数130名以上)	①清掃にまじめに取り組んでいると考える生徒は64%であり、評価指標を満たすことはできなかった。 ②校外清掃ボランティアは、環境委員会が4回、JRCがほぼ毎週、その他部活動が適宜行い、延べ約150名以上が参加した。		
	2) 防災クラブの活動を活性化し、防災リーダーの育成に努める。	2) ①年間20日以上、防災クラブの活動をおこなう。 ②防災に関する研修を年5回以上実施する。	2) ①防災訓練の準備、学校祭展示などの準備などを中心に20回を越えて活動した。 ②防災訓練は、Jアラートによる避難行動を含め6回実施できた。	A	
		活動計画	活動計画の実施状況	(所見) 評価指標関連については概ね達成できた。 本年度は地域との連携を考慮し、防災クラブ(家庭クラブが中心となって)が防災頭巾を製作し、近隣の保育所の子供たちに贈った。	○各クラスで日々の清掃によって環境美化に努めるよう、環境委員を通じて月に一回SHRで呼びかける。 ○防災避難訓練の際にその頭巾をかぶって避難し、高校生の防災クラブ員が誘導する計画を立てた。当日は雨天のため保育所の子供の訓練は中止になったが、来年度は実現したい。

◎ 6. 開かれた学校づくり (教務課・環境情報課・特別活動課・総務課)

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		
生徒・保護者・地域から信頼される開かれた学校づくりに努める。	(全校レベル) I) 積極的な広報活動を行う。 II) 開かれた学校づくりを推進する。	評価指標 1) ①中学生体験入学を改善し、アピール度を高める。参加者は530名以上、参加者の肯定的な感想が8割以上を目指す。 ②学校公開は参加者120名以上を目指す。 ③地域説明会は5カ所で行い、合計200名以上の参加者を目指す。 ④年間2回以上の中学校訪問を行う。	評価指標の達成度 1) ①中学生の参加者は556名で、肯定的な感想は約96%であった。 ②168名の参加があった。 ③5カ所で行い、276名の参加があった。 ④勝浦中学校・小松島中学校から日和佐中学校・相生中学校間にある中学校を2回訪問した。	総合評価 (評定) A	総合評価Aは妥当である。 地域の中学校保護者によると数値に示すように中学生の富西への進学希望が増加していると聞く。ホームページについても在校生や同窓生が高い関心を持てるよう、さらには内容の検討を行うなどして、中学生や中学校の先生方が進路選択に大いに活用できるものにしてほしい。 ○中学生体験入学での講座内容や時間設定など更に改善を図る。 ○学校公開の時間設定や内容などを検討する。 ○ホームページ更新回数を維持するために更新担当者の育成をする。 ○在校生の本校ホームページの満足度が約半数の状況を考えて、在校生に有意義な情報発信について検討する。 ○学校評価アンケート結果を次年次の重点目標設定に反映させる。 ○学校ホームページ内に牛岐同窓会のページを作成するよう務める。
	(下位組織レベル) 1) 中学生体験入学、学校公開、地域説明会等を行い、積極的な広報活動を行う。	2) ①ホームページの更新を年間50回以上行う。また、情報更新から2週間以内にホームページの更新を行う。 ②災害時対応のホームページを充実させる。	2) ①ホームページの更新回数は80回以上(1月末)であった。また、学校生活の様子などについて、概ね迅速な情報更新を行うことができた。 ②携帯版ホームページの編集は継続中である。	A	
	2) ホームページの充実を図る。	3) 教職員による学校評価推進委員会を適宜開催する。また、2月中旬には学校評議員を招いて学校関係者評価を実施する。	3) 学校評価推進委員会を年間4回実施し、今年度の学校評価を予定通り実施した。また、学校関係者評価は3月上旬に実施する。	A	
	3) 学校評価と学校関係者評価を実施し、よりよい学校づくりに努める。	4) ①PTA役員会を年4回実施する。各支部からの少なくとも1名以上の参加者を目指す。 ②牛岐同窓会総会を8月に実施し、70名以上の参加者を目指す。	4) ①PTA役員会は予定通り実施することができた。遠隔の支部や人数の少ない支部では毎回出席できないこともあった。 ②55名の参加者があった。	B	
4) PTA役員会、牛岐同窓会役員会等で積極的な意見交換を行う。	活動計画 1) ①中学生体験入学で生徒をもっと活用するなど、より魅力的なものになるよう改善する。 ②学校公開を10/20(日)に実施することで多くの人が参加しやすいようにする。 ③阿南・小松島・那賀・羽ノ浦・美波地区で本校の教育活動等について説明する。 ④勝浦中学校・小松島中学校から日和佐中学校・相生中学校間にある中学校を訪問する。	活動計画の実施状況 1) ①中学生の参加者は昨年より35名増えた。司会者に本校生を起用し、理数科の説明にも工夫を凝らすなど、アピール度を高めた結果、肯定的な意見が約5%増えた ②昨年より57名増加し、中学生も22名増えた。 ③予定していた5会場で実施した。昨年より77名増え、目標を大幅に上回ることができた。 ④計画通り訪問でき、該当中学校の卒業生の進路や本校の取り組みなどを説明した。	学校評価アンケートの保護者回収率が10ポイント上昇した。学校への期待が感じられる。 積極的な意見交換はできたが、参加者数が少なかった。		
		2) ①いろいろな行事や生徒活動等のホームページへの掲載を迅速に行う。 ②ホームページの災害時等の緊急連絡の機能の充実を図る。	2) ①トップページを一部変更し、学校行事等のページを探しやすくした。数多くの学校行事の情報が掲載できた。 ②携帯版ホームページの編集は継続中である。		
		3) 学校評価をおこなうことで学校の現状や課題	3) 前年度末に提案されたものを検討し、4月の		

		について情報を共有化し、教育活動の活性化につなげる。	学校評価推進委員会で本年度の重点目標や評価指標を設定した。複数の課が目標を共有し連携が図れた。		
		4) ①開始時刻を18:30とし、出席しやすいようにする。 ②ハガキ、新聞、ホームページで案内し、広報に努める。また、電話などの問い合わせに丁寧に対応する。	4) ①計画通り実施できた。 ②ホームページが作成できなかった。		